

ARCADIA

OKAZAKI CITY MUSEUM NEWS



眼の極楽③ 花と鳥のかたち

特任 榎原 悟
館長



図2



図1



図3



図4



図5

(承前) ではその鳳仙花はじめ前掲十八種の草花は、どのような眼と心に係わるのであろうか。その中に「かな書の詩人」(上田秋成の蕪村追悼句の上五中七) 蕪村が「ほうたんや しろがねの猫こがねの蝶」(その情景を描いたものこそ)と吟じた、富貴の花・牡丹や、その牡丹と並称された栄華の花・芙蓉とが含まれると云えば、もう、云うまでもあるまい。が、念のためこれら十八種の花と、常州草虫画や、これに準じた作とみたバージニア本とが取り上げた草花とを較べてみると、実に十四種までが共通する。ゴチックで表記したものが、それである。

となれば、これらの草花、花木が、すべて唐の眼の見出した「漢」に係わる植物であるとみることに無理はない。むろん、わが国では、なおこれを見つめ、ましてや絵に取上げる眼も心も充分でなかったに違いない。となると前述した二十点の

「花鳥画」を描くについても、何らかの典拠とした図像情報があつたはずだ。そんな草花が虫と共に描かれているのだ。いや、そうではない。そんな草花だからこそ虫と共に描かれた、と云うべきか。

永徳の虫

注目すべきは、p(図1)とq(図2)である。彩色と水墨、描かれた木の種類も異なり、一見、何の関係もない作品と思われるかも知れないが、両図とも枝に留まる小禽が、上方に飛ぶ蛇を狙い身構えた瞬間が捉えられている。次の一瞬、蛇は捕食されたに違いない。簡潔な筆遣いの効果もあつてか、小禽の動勢の表現はpが数段優る。さすが永徳、である。

とは云え、頭部を擡げたその姿かたち、蛇のあしらいが両図で一致する。qの絵師石樵昌安(生没年未詳)が狩野派に学んだことは疑いないものの、主な活躍場所を甲州、相模としたとみられるところから、両図の間に、一方がもう一方を写したと云うような直接的関係があつたとは考えにくい。偶然の一致は、さらにないだろう。となると、狩野派内に両図の原図となつた粉本Ⅱ図像情報があつたとみる外ない。

さし詰め『梔子に鶯図団扇』(図3 伝趙昌筆 浅野家旧蔵)こそが、それらすべての、そもそも祖本となつた一図ではないだろうか。これを図版で紹介した中村秀男氏によれば、足利義満(一三五八―一四〇八)以来蒐集された宋・元絵画の目録『御物御画目録』で「小四幅」の内に分類された「花鳥 趙昌」こそが、これであると云い(中村氏前掲論考)、それに従えば、舶載は義満の時代にまで遡る。伝来の点からもこの一図を、すべての原図とみることに無理はない。

とは云え、春の訪れを告げる鶯(春告鳥とも)と梔子の花との組合せが、わたしたちの季節感からは何ともチグハグで解し難いのだが、pとqの枝に留まる小禽(いずれも鶯ではない)の頭部を擡げた姿かたちが、一見してこの鶯の姿と一致するから、やはりこれを原図とみることは動かないのではないかと。ことにpについては小禽の留まるのが梔子である点までも同じであるし、さらに永徳は実はこれとは別にもう一点、そのものズバリ、浅野家旧蔵の伝趙昌本に酷似する作を遺しているではないか。押絵貼屏風のうちの二図「梔子・萱草に鶯図」(図4)が、それである。しかもここでは小禽は間違はなく鶯。その鶯が留まるのも梔子の枝で、伝趙昌本と変わるところはない。強いて変わるところと云えば、萱草を添えた点であろうか。それがまた「漢」に係わる草花で

あるのが何とも興味深いのだが、ともあれ、これによって永徳が伝趙昌本を淵源とする画像情報を持っていたことは間違いない。pを描いた石樵昌安もそうだろう。いや、こと永徳に限っては、実際、伝趙昌本を見る機会さえあったのではないか。

面白いのは、永徳が、その一つの画像情報を原図に二つの作品に（図1、4）描いている点である。いわゆる粉本制作である。そうした粉本制作は陳腐なものど批判されるのが常だが、永徳ならばどうなのか。大目に見られるのか。しかもこの場合には、二図制作し、さらに祖本となった一本も判明している。それらを比較することで、必ずしも陳腐の一語で片付けられない、粉本制作の実際もわかって云うものだ。

まずはp（図1）の場合である。彩色を伴わない簡潔な筆致で動勢の表現に成功していることは既に述べたが、祖本に拠りながらも、次の二点を改めた。枝に留まる鶯を、別の小禽に変えたことと、蛇を付け加えたことである。さすがに永徳も、梔子に留まる鳥が鶯ではまずい、と思ったのだろう。

鶯と云えば、「年たちかへる」初音の声である。その留まる木は、梅か、万葉の時代以来、

うちなびく春たちぬらしわが門の 柳の末に鶯鳴きつ 読人知らず

『万葉集』巻十

と詠まれた柳である。「定家詠十二ヶ月次和歌」の正月分は、この歌を原歌とする。それが梔子の、しかも花が咲いていては、いかにも始末に悪い。そこで鶯をやめた。永徳の内なる「倭」のところが、そうさせたのである。

もっとも鶯を春の鳥と見なさなければいいわけで、実際、鶯は、清少納言が、『枕草子』で、

夏・秋の末まで老い声で鳴きて 「鳥は」の段

と口惜しくも罵ったように、夏の終わり・秋までも鳴く。つまりは梔子の枝に鶯が留まるのは充分あり得ることで、要するに鶯を「倭」のころに伝統から解き放てばいいことだ。その鶯と梔子を描いた『梔子に鶯図』（図3）、モチーフの組合せ自体、既にこれが「漢」画たることを物語る。モチーフの変更だけでも、これだけのことを教えてくれるのだ。

では、もう一つの変更点、祖本には描かれていなかった蛇を追加した点についてはどうか。その理由は単純で、要するに永徳は、祖本（図3）に見る頭部を擡げた鶯の姿を、単に動勢を孕んだかたち、と見るだけでは納得しなかった。さらに具体的に餌を狙うそのポーズと見たのである。となれば、見つめる

その先に、餌の虫が飛ぶのは当然のこと。そこで蛇を描いた。常州草虫画にしばしば登場した蛇である。もとより、偶然の一致ではあるまい。既に永徳は、モチーフとしての蛇の存在を承知していたのである。むろん、その情報のそもそものが漢画、なかならず常州草虫画に由来することは言うまでもあるまい。

その永徳はもう一点、こんな作も遺していた（図4）。先にちよつと触れた押絵貼屏風oの中の一図である。梔子に鶯が頭部を擡げた姿で描かれている。祖本と似た伝趙昌本（図3）と全く変わるところはない。その鶯が見詰める先に、蛇はいない。しかし、頭を擡げた姿を、永徳は、捕食のかたちと見たのではなかったのか。その餌となる蛇がいらない。描き忘れたのか…。

いや、蛇はいるはずだ。この押絵貼屏風を折り畳んだとき、「梔子・萱草に鶯図」（図4 左隻才四扇）に対向する一面「銭葵に高麗鶯図」（図5 左隻才三扇）の高麗鶯が見上げる先に、蛇が飛んでいるではないか。画面を違え、その一匹をそれぞれ二羽が狙う。屈曲させて立てる―屏風のことを十二分に弁えた永徳ならではの趣向である。

ただし、そう見るについては、少なからず問題もある。

その一つは、この屏風一図のいずれが右隻、いずれが左隻か明らかでないだけでなく（ただし本稿では通例に従い「梅に鳩図」のある方を右隻、これを才一扇とした）、添付された十二図が現状の順でいいのか否か。通常こうした屏風では、描かれた草花によって右隻右端より左隻左端へ春夏秋冬季節を推移させるものなのだが、現状ではいずれを右隻、左隻にしようと、この順に乱れが認められるところから、既に錯簡がある可能性も考えられるのである（四季の配分も均等でない）。となると当該二図「銭葵に高麗鶯」と「梔子・萱草に鶯」が現状の位置でいいのか否か。しかし、銭葵も梔子、萱草も夏の花である以上、右隻に来るべきはずだが、その位置の如何に係わらず二図が隣合わせに対向する位置に来ることに、特段の矛盾も無理もない。一匹の蛇を、画面を違えて二羽の鳥に見詰めさせる―永徳の奇抜な趣向に奇知が成立していた可能性は高い（未完）。

図1 「梔子に小禽図」p 狩野永徳筆

図2 「花鳥図」q 石樵昌安筆

図3 「梔子に鶯図」 伝趙昌筆

図4 「梔子・萱草に鶯図」狩野永徳筆 「花鳥図押絵貼屏風」oのうちの

図5 「銭葵に高麗鶯図」狩野永徳筆 「花鳥図押絵貼屏風」oのうちの

EXHIBITION

収蔵品展

暮らしのうつりかわり

～魅せます！土人形 素朴な造形美の魅力～

伊藤 久美子

会期：令和3年1月23日(土)～3月21日(日)

働き終えた道具たちの年に一度の晴れ舞台へ暮らしのうつりかわりの季節が、今年もやってまいりました。昔の道具を紹介しながら、私達の暮らしがどのようにかわってきたのかをたどるこの展覧会も九回目を迎えます。相変わらず美術博物館収蔵庫のなかで、ガラタタの粗大ゴミだのと揶揄され、何かと肩身の狭い思いをしているモノたちです。しかし、これらの道具だって、寄贈していただいた皆さまによって築き上げられた大切な岡崎の文化遺産になるのです。そして、展示することで、ささやかながら美術博物館から寄贈者の皆さまへの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

例年、この展覧会では社会科学学習のため、小学三年生の団体見学を受け入れてきましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、団体見学は難しい状況にあります。よって、いつもとは少し違う構成になっており、子どもにも大人にも好評だった昔の道具に触れるコーナーは、残念ながらありません。昨年のこの展覧会中から始まったコロナ



昭和30年代茶の間風景(令和元年度展覧会より)

■暮らしの道具

禍は、一年を経た現在も私達の生活を大きく脅かしており、展覧会の在り方にも大きな影を落としています。皆さまにはご不便をおかけしておりますが、引き続きご理解のほどよろしくお願いいたします。

会場には明治から大正、昭和にかけてのいろいろな道具を集めました。一家団欒の象徴でもあった昭和30年代の茶の間を再現し、私達の日常生活の基本である衣・食・住にスポットをあて、身近な暮らしの道具を紹介していきます。

3

生活スタイルの変化や技術の進歩により、時代遅れの不便なモノとして姿を消した道具がある一方で、スローライフとかエコが流行りの現代生活において、昔のシンプルさが、あるいはちょっとした先人達の知恵や工夫が見直されてもいます。無駄のない効率的な便利さを享受し、より快適な生活を求めている私達の「今」の暮らしと社会を捉え直す場面にしたいだけだと思います。



カラーテレビ(昭和51年製造)



煉歯磨(資生堂)

■土人形の世界へ魅せます！土人形へ
今回は、美術博物館所蔵の土人形を一堂に紹介します。

土人形とは郷土玩具のひとつです。土をこねて作られた人形で、粘土を型に入れて人形を作り、窯で素焼きにした後、胡粉を塗り、泥絵具で彩色して仕



四方田但馬守(愛知・大浜土人形)



天神(鹿児島・帖佐土人形)



花魁(宮城・堤土人形)

令和の時代になって、収束がみえないコロナ禍にあって、私達一人ひとりが日々の暮らしや社会を再認識し、見直す状況に迫られています。昔の道具から生活の違いや変化、先人達の生活の知恵と工夫をくみ取り、少しでも今を乗り切るためのきっかけにしたいだければ幸いです。

全国各地に共通する人形も多くみられますが、それぞれの郷土色と技法が加えられて独自の作品が生み出され、素朴なぬくもりを感じさせる郷土玩具として伝えられています。収蔵する全国各地の土人形を紹介しながら、素朴で郷土色豊かなその魅力に迫ります。

上げてあります。製作が比較的容易で量産できることから、全国的に良質な土の得られる地方で作られました。とくに江戸時代には節句行事の一般的な定着、流行にともなう、京都伏見を源流にした土人形の製作が全国各地で発達し、節句物や縁起物など数多くの作品が生まれました。この三河地方は明治初期から昭和一〇年代にかけて、三河土人形と総称されるほど土人形が多く作られた地域です。一般の家庭では高級品とされた豪華絢爛な衣裳人形が持てなかつた時代にあつて、子どもの節句飾りの主役と言え安価な土人形でした。子どもの誕生や成長の節目ごとに買い足されました。

EVENT INFORMATION

関連イベント情報

■ ワークショップ

「陶板ひな飾りをつくろう」

5色の粘土でおひなさまのパーツを作り、陶板に貼りつけてひな飾りを作ります。焼成して、後日、完成品をお渡しします。

日 時／2月6日(土)

①午前10時30分～②午後2時～(約90分)

会 場／当館1階ホワイエ

対 象／小学4年生以上、完成品を当館まで取りに来られる方

定 員／各回10人程度

参加費／1個 1,000円

※事前申込制(申込方法の詳細は当館ホームページにて掲載します)。



■ 展示説明

昔の道具の見どころや土人形の魅力について当館学芸員がお話しします。

日 時／2月20日(土)・3月7日(日) 各日とも午後2時から

会 場／当館1階展示室

参加費無料 ※ただし、当館は有料館のため観覧チケットが必要です。

■ ひなまつりスタンプシールラリー

日 時／令和3年2月6日(土)～3月7日(日)

愛知県内の博物館・資料館のひなまつり展をめぐってスタンプやシールを集めよう！先着でいろいろな景品がもらえるよ。

参加費無料 ※ただし、当館は有料館のため観覧チケットが必要です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントが中止または変更となる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご確認下さい。

EXHIBITION

コロナ禍のマイセン動物園展

浦野加穂子

今年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大にともない、当館も休館や企画展の中止・延期、企画内容の変更を余儀なくされました。九月十三日に開幕した「マイセン動物園展」は夏休み期間の展示であり、多数の来館者を想定していました。このため展覧会を安全に開催できるよう試行錯誤を重ねました。

まず館内に消毒液とコロナ対策の注意喚起表示を設置し、密集対策としてホワイエの椅子のレイアウトを変更しました。椅子やエスカレーターの手すりなど共用部分の消毒・清掃を徹底し、図書コーナーの利用は休止しました。展示室入口には来館者が間隔を空けて整列できるようフロアマーカーを設け、受付等には飛沫防止対策としてアクリルパネルを設置し、受付や会場監視等のスタッフはマスク及び手袋を着用して来館者に対応しました。展示室内は観覧人数の制限を設けましたが、本展会期中は制限に達しませんでした。

会期中のイベントは、三密を避けるために定員を70名から30名に減らしました。スペシャルレクチャー・ギャラリートークは展示室内での作品解説ではなく、セミナールームでのスライドレクチャーに変更し、ワークシヨップは空間の広い地階搬入口前で実施しました。参加者には検温・マス



セミナールーム

ク着用・手指消毒・連絡先記入表の提出・間隔を空けた着席をお願いし、講師席には飛沫防止のアクリルパネルを設置しました。イベントはいずれもほぼ定員に達し、検温等の対策にもご理解をいただきました。

コロナ禍のなか、目標入場者数を上回る約一〇〇〇人の方がご来場くださいました。本展は幅広い層の方々にお楽しみいただけよう、色彩豊かで立体的な造作や動物の足跡をプリントした壁面など親しみやすい展示空間になるよう工夫し、作品撮影が可能なコーナーを設けました。「久しぶりに芸術に触れて心が和んだ」「コロナ対策をしっかりしていた」などの声をいただきました。

感染症の拡大を受け、博物館などの文化的活動は不要不急のものとされ、館のあり方が問われています。当館も展覧会や収蔵品の紹介などをWEB上で発信していますが、休館等を経てやはり展覧会の空間に身を置き、実物の作品と対面してその魅力に触れることは何物にも代えがたい貴重な経験であると改めて感じています。今後も感染症対策を徹底し、作品を通じて学びの場、そして癒しの場を提供する方法を模索してまいります。来館者の皆様にはご不便をおかけしますが、安全な作品鑑賞のためにご協力をお願いします。



展示室内

博物館実習

金沢実徳

当館では毎年、学芸員志望の学生対象に博物館実習を行っています。学芸員とは「展示室内で作品の傍に座っている人」ではなく、主に館内の事務室で展覧会の準備や収蔵資料の管理などに従事している専門職員のこと。そんな学芸員になるために必須となるのが学芸員資格で、それを取得するための授業の一つがこの実習です。

今年は感染症が心配されましたが、事前の健康観察や密を避ける等の配慮をして8月18日から23日の5日間で実施、5大学から6名が参加しました。

実習内容は資料の取扱いや広報活動など、博物館の活動全般についてです。特に「岡崎市美術博物館の紹介※」では、当館の魅力を感じるところを取り上げ、展覧会以外で博物館の楽しみ方を提案するというもので、今回の新たな試みです。最終日の発表会では、職員では思いつかないような切り口で館の新たな魅力を披露してくれました。

せっかくの機会なので多くを吸収してほしいと、担当（私）がぎゅうぎゅうに詰め込んだ時間割。トライアスロンのように目の回る5日間だったことでしょう。ほんとうにお疲れさまでした。



資料取扱い実習の様子

展示プロモーション実習の様子

資料取扱い実習の様子

*実習生の提案は当館SNSで投稿予定です。
→Facebook、Instagram

INTRODUCTION

史料叢書の町方資料編刊行について

堀江登志実

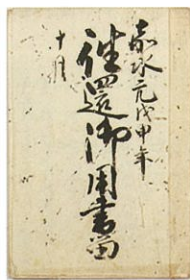
岡崎市史料叢書は、当館の事業として今までに『中根家文書』上・下、『長嶋家御用日記』、『大樹寺文書』上・下、『瀧山寺文書』上・下の計7冊を刊行しています。岡崎市の歴史を語る上で重要と思われる古文書を随時翻刻刊行して後世に伝えてゆこうとするものです。次の刊行にむけて、現在準備していますが、ここでは次回刊行予定（令和4年度）である町方史料編についてどのような内容になるのかを紹介しましょう。

町方史料編は近世岡崎の町方に関する歴史資料を紹介します。近世の岡崎は城下町であり東海道の宿場町でもありました。「其賑ひ駿府に次ぐべし」（太田南畝『改元紀行』）ともまで言われたほど繁栄し、西三河経済の中心でした。近世史料もたくさんあったはずですが、戦災で岡崎市街地が焼失、現在残る町方史料は極めて少ないのが現状です。

現存する町方史料では、糸惣小野家、大黒屋小野家、連尺町太田家、投町区有文書、西本陣中根家、脇本陣杉山家の文書がありますが、なかでも中心となるのが、伝馬町にあった糸屋惣兵衛（糸惣）の小野家に伝来した史料群です。平成四年に刊行された『新編岡崎市史』通史近世でも伝馬町の成立など宿場町に関する記述の多くは糸惣文書に依拠しています。今回の史料叢書でも、糸惣文書のなかからいくつか市史未収録の史料を掲載予定しています。その一つに岡崎宿の問屋を糸惣の小野家が勤めていた時に記された「往還御用書留」が

あります。問屋は伝馬継立を行う所ですが、岡崎宿の有力な町人が交替で同所に詰めて継立業務に従事していました。どのような人物が往来し、人馬を調達したのかを記しています。これを見ることにより岡崎宿を利用した主要な人物を把握できます。このほか糸惣には小野家が伝馬町の庄屋を勤めたことにより、伝馬町の年貢納入に関わるもの、また小野家が岡崎藩御用聞の頭取を勤めたことでの御用金調達に関するもの、岡崎の塩座に関わるものなども伝来しています。これらのなかから掲載史料を現在選択中です。

また、今回の史料叢書に収録予定の一つに大黒屋小野家の「庄屋役中諸事陶」があります。これは岡崎宿伝馬町の庄屋が役務を勤める上で必要な前例、慣例、情報を記録した重要な文書です。庄屋のマニュアルとして使われたのでしょうか。この史料に掲載される文書は、他家の文書などにも見られます。岡崎の町に生きる者に必要不可欠の史料だったために書き写されて各所で伝えられたのでしょうか。



往還御用書留

YOU USED TO BE

男子学生服として広く用いられている詰襟服には二つのルーツがあります。

一つ目は「ダルマ」。体の曲線にあわせて背中に縫い目が走っているのが特徴で、現代でも式典で用いられるフロックやモーニングなどがこの服の親戚にあたります。フランス語の *dolman* に由来するとされ、ボタンを用いないホック留めのものが多く、今でも稀に着用されています。

もう一つは「セビロ」。「ダルマ」よりもパーツの少ない簡素な作りで、ボタン留めのものが多く、現代のスーツの先祖にあたります。古くは背縫いのないゆとりをもった作りをしていました。これがセビロⅡ背広の語源になったという説もあります。現代の学生服は大半がこのスタイルですね。

世間では「ダルマ」の言葉は廃れ、「セビロ」も明治の終わりごろからテラードカラーのもののだけを指すようになりませんが、仕立業界内では基本構造の違いによって昭和ごろまで「達磨服」「詰襟背広」などと区別をしていました。

(米田)



SHOP INFORMATION



ミュージアムショップ YAGURA

店舗紹介

新型コロナウイルスが騒がれ始めてから、もうすぐ1年が経とうとしています。未だに感染のリスクに怯えながらの日常を過ごし、年末年始の行事として神社へ参拝に行くことも躊躇されている方もいらっしゃるかと思います。本当に一日も早い感染拡大の収束を願いたいものです。

ミュージアムショップYAGURAでは、12月15日から1月11日までの期間、日本の神棚で神さまをまつる企画展「神棚の里」を開催しております。神社で頂くお神札をご自宅で綺麗に祀って頂くための神棚。モダンなデザインのものから省スペースで壁に飾るもの、様々なデザインの神棚を取り揃えております。神棚の新しいカタチ、是非この機会にご覧頂ければと思います。なお、企画展終了後でもミュージアムショップでは、引き続きいくつかの神棚は継続してお取り扱いしております。

店舗情報 館内2F

営業時間 10:00 ~ 17:00

定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)

TEL 0564-83-5952 FAX 0564-83-5953

MAIL yagura@b-soup.com

Facebook <https://www.facebook.com/museumshop.yagura>

YOUR TABLE

カフェレストラン YOUR TABLE

店舗紹介

岡崎市美術館併設のカフェレストラン『YOUR TABLE』。ガラス張りの店内には太陽の光がいっぱい入り、お洒落で開放的な空間が広がります。ランチ時には景色を愉しみながらお食事をするができます。展示毎にシェフ考案のコラボメニューも登場。

カフェタイムにはやケーキセットや軽食などを販売中。

店舗情報 館内2F(西側)

営業時間 11:00 ~ 21:30

ランチタイム 11:00 ~ 14:30 (L.O.14:00)

ティータイム 14:30 ~ 17:00 (L.O.16:00)

ディナータイム 17:30 ~ 21:30 (L.O.20:30)

定休日 月曜日(祝日の場合は営業。翌火曜日が振替定休日となります)

TEL 0564-28-0141

HP <https://your-table.owst.jp>



表紙画像: 上右 加藤清正の虎退治(岐阜・美濃姫土人形)
上中 饅頭喰い(京都・伏見人形)
上左 寧王女(愛知・棚尾土人形)
下 七福神(秋田・中山土人形)



岡崎市美術館
[マインドスケープ・ミュージアム]

開館時間

午前10時～午後5時

※最終の入場は閉館時間の30分前

休館日

月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌平日が休館)

年末年始 ※展示替え中は臨時休館します

<https://www.city.okazaki.lg.jp/museum>

ARCADIA

OKAZAKI CITY
MUSEUM
NEWS

[岡崎市美術館ニュース/アルカディア] 第85号 2021年1月発行
編集・発行 岡崎市美術館(マインドスケープ・ミュージアム)
〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町字峰1番地 岡崎中央総合公園内
TEL 0564-28-5000(代表) FAX 0564-28-5005